震災直後の支援に感謝を込め、海産物を提供

2013 年 9 月 28 日、「第 21 回シーエックスカーゴ感謝祭」がシーエックスカーゴ※1（CXカーゴ）本社のある埼玉県桶川市で開催されました。同社は「食のみやぎ復興ネットワーク」※2の参加団体でもあることから、今年は「復興支援の感謝を込めて東北の商品をたくさん利用していただこう」とCXカーゴ仙台流通センターからの提案があり、同ネットワークに加盟する（株）加工連（宮城県角田市）、岩手県産（株）（岩手県紫波郡矢巾町（しわぐんやはば））の協力で、ウインナーやホタテ、イカなど宮城・岩手の県産品 600 人分が会場に届けられました。

●震災直後から支援を開始

13 年 9 月 28 日、「第 21 回シーエックスカーゴ感謝祭」が開催されました。CX カーゴでは、荷主、協力会社、地域の皆さんへの感謝と交流のために各地の流通センターで毎年秋に感謝祭を実施しています。

今年は「復興支援の感謝を込めて東北の商品をたくさん利用していただこう」と、（株）加工連と岩手県産（株）の協力で宮城と岩手の県産品であるホタテやイカなどが届き、来場者に好評でした。

東日本大震災発生（11 年 3 月 11 日）の夜、日本生協連は CX カーゴ関東流通センター（CX カーゴ本社）から、水や食料などの支援物資を積んだ大型トラック 4 台を出発させ、翌 3 月 12 日の朝には仙台市内のコープ東北サンネットの富谷セットセンター（宮城県富谷町）に到着しました。その後も支援物資輸送のために約 1 カ月間、24 時間体制で物資の輸送に取り組んでいます。

発災後に富谷と桶川間の物資輸送に携わったCXカーゴ仙台流通センター輸送グループの寒風澤保男（さぶさわやすお）さんは、発災当時は仙台流通センターで積み込み作業をされていたそうです。

「大きな揺れを感じました。当時はまだ携帯電話が使えて、同僚のワンセグテレビのニュースで『津波が来る』と知って避難しました。2 週間ほど自宅待機しましたが、その後は物資輸送に携わることができました」と振り返ります。

感謝祭には、多くの人が参加しました。
岩手の「ほたて焼き」には行列も。

センターは大きな津波被害を受けた仙台空港のすぐ近くで、コンピューター制御の倉庫も在庫も壊滅状態でした。職員の安否確認にも手間取ったそうです。残念ながらお一人が亡くなられ、ご家族や家を失った方も少なくありませんでした。そうした中でも発災直後から「緊急車両」として支援物資を届けるべく、倉庫に積み上げられた支援物質の中から、カップ麺や水など、被災地で必要とされるものを運び出し、送り続けました。

「輸送のニーズが増えて配車が通常の 10 倍以上になりました。車も燃料もドライバーも足りない

中で、配車は関係会社などに要請し、何とかやりくりして続けました。また、ならコープなどの他生協や当社 OB の応援もあり、大変助かりました」

発災から 1 カ月で CX カーゴが東北に運んだ支援物資は 10 トントラックで 600 台分以上に上りました。

綿菓子作りに真剣の子どもたち。

また、ライフラインが崩壊する恐怖を体験し、特に水の大切さを痛感したそうです。「運んだ物資も水がメインです。あとはお茶や使い捨てカイロなども多かったですね。交代で集荷場所から水を受け取って被災地へ輸送しましたが、ガソリンスタンドも長蛇の列でした。亡くなった方も多いなか自分は助かったので、頑張りたいと思いました」

仙台流通センター第 1 グループの武田耕太郎さんは、発災後は 2 週間ほど仙台流通センターに泊まり込み、荷物の積み込みの業務を中心に行ないました。「現在の仕事は震災前と同じペースに戻っています。発災直後は本当に忙しかったけど、意義はありましたね。仮設住宅の人達は、今でも辛い思いをされていますから、これからも自分ができる業務を着実に行なっていきたいです」と話していました。

同センターの伊熊杉尾所長は、「発災直後は支援物資の配送と施設の復旧に追われましたが、こうして皆さんと感謝祭を楽しめるところまで来ました。13 年 9 月 8 日には仙台支所でも感謝祭を開催しています。昨年から復活した地元のチームによる、よさこいも好評でした」と話し、「真の復興とは、やはり経済の復興でではないかと思います。東北の県産品を買っていただくことで経済が動き、雇用も生まれます。東北には海産物、米、野菜、果物とおいしいものがたくさんありますから、ぜひ買っていただきたいです」とアピールしていました。

●感謝祭でお礼ができてうれしい

感謝祭は、CX カーゴ関東流通センター統括マネジャーの熊谷勉氏の開会宣言を皮切りに、同社代表取締役社長・西村修一氏の主催者側あいさつと来賓のあいさつに続いて鏡割りが晴れやかに行なわれました。

CX カーゴの西村社長の「感謝祭」開会宣言の様子。

また、被災した社員を代表して、武田さんが「たくさんの物資をお送りいただきありがとうございました。皆さんのご支援をいただいたので、自分も頑張れました。このような場でお礼を申し上げることができてうれしいです」と謝辞を述べ、大きな拍手が起こっていました。

乾杯のあとは、東北ののぼりを掲げた屋台に早速長蛇の列ができていました。

参加者の皆さんからは、「毎年来ているけど、こんなに甘くておいしいホタテは食べられるなんて、びっくり」（50 代女性）、「イカは厚みがあってもやわらかくて食べやすいから、いいわね」

2013年9月28日　「第21回シーエックスカーゴ感謝祭」で海産物を提供

（60 代女性）、「このソーセージ、あっさりしてるけど、旨みがあるわね。どこで買えるの？」
（50 代女性）、「日差しが強いから、うまいイカでビールがすすむね」（60 代男性）などの声が聞かれ、大好評でした。
　伊熊所長は、「デザートがあったら、もっとよかったかも。来年は宮城のブドウなどはいかがでしょうか」と、もう来年のプランも視野に入れていらっしゃる様子でした。

埼玉県・桶川高校吹奏楽部による演奏の様子。

　会場では地元・桶川高校の吹奏楽部による演奏、CX カーゴ社員の皆さんによるクイズなども行われ、楽しい土曜日の午後になりました。

　今年は、仙台（9 月 8 日）のほか広島県尾道市、佐賀県鳥栖市、愛知県小牧市、鹿児島県姶良（あいら）市の営業所の感謝祭でも提供される予定とのことです。
　伊熊所長は、「支援してくださった皆さんに感謝を申し上げます。東北の復興や食に関心を持っていただき、今後の商品の利用につながればいいと思います」と話していました。

※1　日本生協連が 100%出資する物流専門会社。埼玉県桶川市に本社を置き、全国の会員生協の店舗や宅配センターへの商品配送業務を担っている。

※2　みやぎ生協を中心に、宮城県内の食に関わる業者、団体などがプロジェクトを組み、食から宮城の復興を目指す。13 年 10 月 15 日現在、参加団体数は 229。